



カナダ人が JAN のトレーニング・プログラムに関わって、今年で 8 年目になる。JAN は、公共の雪崩アウェアネスの機会を増やすことと、プロ用雪崩講習会やセミナーを提供することを目的に、2000 年出川あずさによって設立された。彼の長期的な目標は、日本の山岳関係者に向けて、雪崩の掲示板に情報提供ができるプロの雪崩予報官を育て上げることである。現在、日本国内に雪崩協会はない。そして JAN は、日本国内で雪崩予報や事故防止含む本質的に異なっていたいくつかの団体や組織がある中で、ひとつの共通コミュニティができるための土台を作っている途中にある。

この目的を果たすためにイニシアチブを取っているのが「雪の掲示板」、いわばオンラインによるバックカントリーの情報掲示板システムである。これはコントリビューター達がフィールド気象観測、積雪構造のコメント、安定性評価を決められたフォームに入力し、アップできるようになっている。さらに、コントリビューター達が雪のプロファイルをアップロードできるシステム、SPIN (the snow profile information network) が稼動している。

今では日本でも、ラリーが教えた 1 日のリフレッシュコースを埋めることができるくらい、Level 1 をクリアした人達がいる。その日の夜、ラリーとノリ、デガワ、そして私の 4 人は、リフレッシュコース受講生に「雪の掲示板」のベストな書き込みについてのガイダンスを行った。

私たちのカナダでも見られるように、雪崩の専門家として習得しなければならない一番難しいスキルは、膨大な量の情報を統合する能力と、すべてのデータの中から重要な要素をうまく組み合わせつつ、簡潔に意味の通るかたちにまとめる能力である。私たちは、カナダでも ACMG (Association of Canadian Mountain Guides) の MCR や InfoEx において、同様の問題で、どのようにして奮闘しているかを話し合った。そして、将来、受講生達の書き込み内容が向上するように、いくつかのガイドラインと書き方の例を教授してきた。



講習会最終日、バックカントリー・スノーボーダーのグループが、八方尾根スキー場の山岳エリアで、危機的な埋没を含む雪崩事故を起こした。私は後日、当該グループの一人である Level 1 所持者に出川氏と一緒に東京で会い、この事故の詳細を聞くことができた。また、このグループの地形選択と意思決定の過程についても話し合った。

破断した層は、暖かく晴れた日に、北斜面で形成された薄いこしもざらめ雪の層（訳注：実際は降雪結晶）ではないのかということ。私たちは、こうした雪崩講習会がすべての雪崩事故を防止できるとは決して思っていないし、また個人的にトレーニングをした人ほど、雪崩地形の中で活動することが多いことも知っている。

現在、JAN は、次の段階の教育内容に進むために CAA と動いており、Level 2 が来年、展開される予定である。日本でも、雪崩のプロとして標準的な記録や観察の仕方を学び、雪や雪崩に関わって働く人の数が増えていることから、JAN の目標である公共の情報伝達プログラムの稼動も将来的に可能であると期待している。

Brad White……IMGFA/ACMG 山岳ガイド。Parks Canada に勤務する山岳安全スペシャリスト。CAA の ITP 講師を 20 年。